

刊夕 日三十三月八



支那單語
原色のことは浅灰でチ
エンホイ、空色は天藍
と書いてテイエンラン
紫のことは紫色と云ふ
ときツリソリ或は他に
オウホーと唱ひ緑色は
ユイソ、カーキ色は
トウホアンソと云ふ

告示前の暗中飛躍に 肅選官民の眼が光る

暗取引に出没する戸別訪問 激戦を豫想される新戦場

来九月廿五日の改選期を控ふ
石城郡政界は既に其の
陣容に忙しく民政派では所
報の如く獨立の平市部から一
名(野崎)郡部からの三名に草
野現職及び湯本、植田、勿
來町部より指目されるものと
元縣議萩原義雄氏(平)等の
呼聲高く政友派にありては關
内正一現職を平市部より郡
部からは蓮沼、小野兩縣議の
再出に木村守江(四倉)及び古
川傳一(植田)兩氏等を数えら
れてゐるがこれに發正會の齊
藤晃氏が單騎をあてる出陣
を交へての開戦は相當の激戦
かと唱ひられ就中市部の新戦
場に於ける關内對野崎の一騎
ればあるまいと觀られてゐる

關内 視察報告演説

滿支産業視察並びに郷土部隊
慰問の旅から歸つた縣議關内
正一氏は市内各戸の各種団体
その他各階層から視察報告演
説を請はれてゐるが本社及び
同業警報時報では關内氏旅行
中の視察記を紙上に連載した
る關係もあるが同演説會の
主催となり方部青年團並びに
各種団体その他の後援で明二
十四日から開催を決したるも
の左記の如くである

▲廿四日性源寺(長橋、研町
材木町)廿五日天理教本堂

區長初顔合せ

平市内行政區長改選後の初顔
合せは来る二十六日市會議事
堂に於て開き選挙肅正、貯蓄
報國その他につき協議する

改稱の新役員

平市軍事後援會は協議の結果
銃後奉公會と改稱を決したが
今後は會員制度として毎年百

金成中尉外廿四靈の 舊盆追悼法會

廿六日平市公會堂に於て
平市銃後奉公會では今次事變
の陣歿將士故金成中尉中尉
外廿四靈の舊盆追悼法會を來
る二十六日(舊十二月)午後一
時から市公會堂に於て執行奉
公會員、各種団体員參列、市
内各宗寺院僧侶一同の厳かな
禮經、青沼奉公會長の追悼文
終つて各遺族をはじめ參列一
同の焼香拜禮がある

陣中日誌に 遺言の寄附

四団体(二百圓
石城郡川部村の沼部出身楠田
敬壽上等兵戦死の村葬は去月
二十三日執行され戦地から送
られた遺留品を整理した同家
が陣中日誌に死を覚悟し戦死
の場合に青年團、小學校、郷
軍分會、國防婦人會(各五十
圓)を寄付されたとして記してあ
つたので以上二百圓を遺言の
通り寄付す

木炭増産の 協議會

三割は殖えやう
平木炭検査支所では木炭の増
産計画につき去る七月七日双
葉郡川内村を振出しに生産者
を集むる協議會を管内主産地

養蠶實組の總會

平市養蠶實行組合聯合會は明
二十四日午後一時から第四小
學校に開催晚秋蠶の飼ひ方に

祝賀の作品展

平市商業學校の新築落成式並
に祝賀會は来る十月舉行の筈

戦地の便り

石城出身の勇士 何れも大元氣

然れども此の間〇〇解除敷
回ありて事件當時〇〇名の
將校も今では其の三分の一
になり其の中〇〇名は東北
健兒の福島人にてそれ〇〇
〇隊の中堅となりて活躍い
たり居り候、石城郡出身も
關口警備隊少尉の戦史編輯
部行き以外は湯本の木村少
尉の〇〇、宮本少尉の〇〇
(小生)と同〇隊長(少尉)
(平)の〇〇と各々大いに頑
張り居り候、此の間に猛訓
練は將校中に胸臆思を出し
て除隊一名これあり申候
幸ひ前述の如く石城出身は
大いに元氣にて活躍いたし
居り候へば他事ながら御安
心下され度願上候、小生も
其の中に専攻いたし目下
幹部候補生及び下士候補の
教育を命ぜられ専念教育に
没頭致し居り候處在郷中の
經歷にて本年度の簡便點呼
の補助官を命ぜられ出張中
に有之候、本日事變勃發第
二周年記念日に當り當地の
第一回の點呼を實施し居り
候處は生徒一同宛書翰中の
如くにて候、鮮内の點呼は
内地のそれと變りなく國境
〇〇管下の在郷軍人として
第二補充兵まで猛烈な氣合
に實に頼母しく感ぜられ候

赤井村高萩に 昨夜辻強盜

三人組の抗夫
石城郡永戸村の芝崎初彌(四〇)
は昨二十二日午後七時頃同郡
赤井村高萩地内を通行中團蔭
から屈強の青年三名が出で、
道を塞ぎ所持金一圓五十錢を
強奪され若くはつて同村駐在
所に訴へ時を置かず追跡した
小山田巡査の手に同犯人二名
を取押へたが此は同村日曹
福島炭礦坑夫市毛定男(二〇)と
同坑夫高木河男(二七)で逃げた
一名を捜査中である

病弱を悲觀

福住で猫自殺
平市曙前福住旅館に投宿した
石城郡内郷村高坂の警備隊炭
坑夫小林義雄(三〇)は昨二十
二日午後五時頃猫イラズを服し
て自殺せるを發見大驚で平
署の検視を受けた原因は病弱
を悲觀の末である

玉川村役場 公金紛失の怪

石城郡玉川村役場の金庫から
去る昭和十一年秋公金百五十
圓を紛失その後数度にわたる
粉失があるため勘定違ひでは
ない不審が深まり元収入役若
松清彌氏(五九)が後任の前収入
役波木井吉氏に事務引継ぎ
の際二個ある管の同金庫の鍵
を一個だけ渡されてゐること
から端緒を得た平署の活動で
現収入役高萩義平氏に至るま
で關係者を小名濱警部補派出
所に召喚極秘裡に取調べ中で
あつたが其の結果若松氏の仕
業と見込まれ取調べを進めて
ゐるが同氏は村役場を退職後
勤めて縣稅務平出課所を同事
件に先き立つ此の程辭職して
ゐる

陣中から寄附

平市新川町出身大沼孝治君は
中支戦線茨州部隊の柴田部隊
に屬し活躍中であるが陣中か

自殺を圖る

廿二娘新川端で
平市字堂の前小林しん(三〇)は
昨二十二日夜九時頃平署裏の
新川端でカルモチンを嚥下自

青年團恤兵献金

平市久保町青年團では改組後
團費を節約して出来た金五圓
廿五錢の恤兵献金を市役所に
寄付す

猪狩庄平

昭和三十四年八月廿三日
平市四丁目

頭部を刺傷

抗夫酒の上の喧嘩
石城郡上遠野村生れ當時同郡
内郷村の白水入山川平坑夫
山野十郎(二〇)は去る十八日夜
自宅に於て同僚小野爲吉(四〇)
と飲酒口論の末双渡り五寸五
分口で爲吉の頭部を刺傷し
人事不省に陥らしめ被害者は
手當中で生命危篤、平署で加
害者を檢傷傷害罪で取調中

電工の感電即死

石城郡大日本炭礦工友後藤夫
次郎(四〇)は去る二十二日午前
十一時頃同炭礦採炭場付近で
高壓線修理中誤つて感電即死

文魁文堂

御誂い御製品の
高島屋洋服店
平二丁目三六

高島屋洋服店

御誂い御製品の
高島屋洋服店
平二丁目三六

文魁文堂

御誂い御製品の
高島屋洋服店
平二丁目三六

猪狩庄平

昭和三十四年八月廿三日
平市四丁目



農生活安定と 戦時食政確立

農林省の明年度の豫算は八月十日をもつて農林大臣の査定を終り計数をとりまわめて大蔵省へ廻付されたが新豫算の特色は戦時食糧政策の確立と農民生活の安定に重点を置き、あはせて農林水産物の輸出に力こぶを入れている。

戦時食糧政策の徹底のためには農林水産物の増産を恒久化し新地の擴張、農山漁村作業の機械化、林道の開設の如き地方農民が従来要求して来た大部分の政策が實現化する模様であつてこれ等の諸計画實施のため農業生産資材及び肥料の配給統制を徹底すると同時に農業團體の整備統制と農産物の試験研究などあらゆる角度から増産に邁進することになつてゐる、また輸出振興方策としては輸出向きの各種産物を抽出してこれが販路の開拓を行ふはずである。

以上の如き諸方針を通じて農山漁村の生活の安定も根本的な問題として考慮され農産物及びこれが生産資材の価格政策等について適正を期せられやうとするの外農村更生運動、農村保健の改善などの問題があり結局新豫算の豫算は大体二億程度と見られ其の振替當ての如何は農林省の最初の試練として注目されてゐるが戦時下に添ふる農山漁村の生産擴充に新しい活躍を促されてゐる(完り)

肉の御用命は

三三三屋

牛も豚も優良品の自慢

「貯蓄は無盡で」

三三三屋

無盡の貯蓄

病室増築、手術室完備

産科 醫學博士

婦人科 五十嵐雄二

平市新川町一 電話二六九番

便利で
経済な日下家政婦會の
派遣婦を御利用下さい

身元確かで品行方正ですから
何を任せしてもご安心です

平市白銀町十番地 (電話七二三番)

日下家政婦會

會員同志の御加入(派遣なき閑暇に裁縫や)を御誘ひ致します(編物をお教授致します)

電話五九二番

に變りました

喫茶、酒場を兼ねた。

レストラン
サロ

平市銀座街

大小の御宴會に……

御家族の御同伴其他の御集ひに御座敷……

味覺實價
衛生萬點の
マルト生食堂

平市四丁目(電話二二三番)

平田町(三丁目裏川岸通)

明徳堂眼科醫院

入院應需(自炊の便あり)

電話六六九番

涼味そよる

夏物洋品愈々進出

スマートなカンカン帽子
可愛らしい……お子様帽子
婦人・子供清涼着
その他色々陳列

つるや 平四 電話140

國民精神總動員

日本國民必見の誌……

内閣情報部發行

寫眞週報

1部10セン

お取次致して居ります

平二 西村屋藥局 電三

カバと洋品類

眞砂屋 (前驛、市平) (り通道新)

電話五六

診療科目

一、齒科一般
保存科、補綴科、矯正工科、齒列矯正科、小兒科、齒槽膿漏科、

一、口腔外科

一、レントゲン科

平市田町(松月堂向と)

中野齒科醫院

院長 日本齒科醫學士 中野憲次
日大醫學士 鹽谷伍郎
主任 佐藤重義

三三三屋

九九・九電

安流丸

諸君よりの大妙藥

特約 山野透藥局

平五 電話